

来週の市場とレート予想

	1/25(月)	1/26(火)	1/27(水)	1/28(木)	1/29(金)
無担保O/N			0.030%	0.125%	
銀行券	+ 700	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 2,400	+ 7,000	+ 1,000	△ 4,000	+ 1,000
資金需給	不 1,700	余 8,000	余 1,000	不 4,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20年)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,300 CP等買入 △ 800 社債等買入 △ 400				
オペスタート	共通担保(全店) + 3,100 ETF買入 + 100	国債買入 + 12,600 短国買入 + 25,000			
(日本)	榊原経団連会長会見 貿易収支(12月)	閣議		日銀金融政策決定会合 (1日目) 対外対内証券売買(前週分)	日銀金融政策決定会合 (2日目) 展望レポート公表 黒田日銀総裁記者会見 消費者物価指数(CPI全国 12月、東京都区部1月) エネルギーと生鮮食品除く 消費者物価指数(12月速報) 完全失業率(12月) 有効求人倍率(12月) 鉱工業生産指数(12月) 決済動向(12月) 住宅着工統計(12月)
	独 Ifo景況感指数	米 FOMC(27日まで) 米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数(11月) 米 消費者信頼感指数(1月) 米 FHFA住宅価格指数 (11月)	米 FOMC、政策金利発表 米 新築住宅販売件数(12月)	米 新規失業保険申請件数 (23日終了週) 米 耐久財受注(12月) 米 中古住宅販売成約指数 (12月) 欧 ユーロ圏景況感指数 (1月)	米 10-12月GDP(速報値) 米 シカゴ製造業景況指数 (1月) 米 ミシガン大学消費者マインド 指数(1月確定値) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演
(海外)					

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.080 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

日銀当座預金残高は国債買入オペ等により前週末対比約1兆円増加の254兆円1,100億円から始まった。その後国庫短期証券買入オペ・国債買入オペを主因に増加し、20日に256兆円台となったが、21日には5年債の発行等を受けて253兆円台まで減少し、254兆6,400億円で越週した。無担保コールON物加重平均金利は、週を通して0.074~0.076%のレンジで推移した。ターム物は1W物で0.11%台後半の出合いが見えられた。

日経平均株価は原油下落や円高進行等を背景に、20日終値で16,416円19銭をつけ、2014年10月以来約1年3か月ぶりの安値となった。続く21日も終値は16,017円26銭と連日昨年来安値を更新したものの、週末となる22日には欧州の追加緩和観測や円高一服などにより3日ぶりに反発し、前日比941円27銭高の16,958円53銭となった。ドラギECB総裁は21日、理事会後の記者会見で「3月に開く理事会で政策を再評価する」と述べ、追加緩和の可能性を滲ませた。また理事会では政策金利が0.05%で据え置かれた。

来週の予定としては、国内では日銀金融政策決定会合(28・29日)やCPI(29日)、海外では、FOMC(26・27日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.060 ~ 0.080
TDB 3M	▲ 0.050 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約8,300億円で、期落ち額約5,000億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。前週に引き続き、商社を中心に大型の案件が見られ、発行額が膨らんだ。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%近辺~0.090%近辺を中心に推移した。

現先レートの中心は、0.050%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約15,000億円程度となっている。

<TDB>

21日に国庫短期証券3M第584回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0180%(前回債△0.0220%)、平均落札レートは△0.0212%(前回債△0.0276%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.035%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.09%近辺の地合いとなった。来週28日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは、週初0.08%近辺の出合いから始まり、週中には0.085%~0.09%、短国3Mの発行日となる25日受渡では、0.09%~0.095%までレートが上昇した。短国・国債買入が3兆7600億円オファーされた26日受渡では0.06%近辺にレートが低下したが反転、0.08%台半ばの出合いも多く見られた。

SCは20年155回債が22日受渡のO/N物で△0.10%~△0.20%の出合い。10年338回債もビッドが増加、O/N物は△0.20%近辺の出合いも多く見られた。他では5年債は126回債、10年債は328・336・339・340回債、40年債は7・8回債に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。